第5回『みんなで創る自治基本条例町民会議』グループ討議

＜　Aグループ　＞

出席　～　宮田委員、杉原委員、岡本委員、清野委員、三浦委員、高崎委員、吉田委員
（事務局～浅野、橋本）

テーマ『こんなまちに住みたい』を地域でつくるには！

◎二つの柱『笑顔』と『安心』→　世代間・地域の助け合いが必要

○ニセコ町の条例の前文を見て同じように言葉を羅列することはできる。他の町の条例も似ており、わが町ならではのものをつくりたい。

○世代間の繋がりが希薄な感じがする。そのようなことを解決する手段を条例に盛り込みたい。

○テーマが壮大すぎて答えが見つからない。今回条例をつくるにあたって子どもや子育て世代が安心して生活できる（外で遊べるような）環境が必要であることを確認したい。

○少子高齢化・人口減少を考えると住みやすい町づくりをするにあたって、町民相互の情報共有が必要。

○何が美幌にとって必要かという共有認識が必要であり、このような話し合いの場も必要。

○「笑顔」があるまち。そのために何を積み上げていくのかを考えたい。

○皆がバラバラになっており、個人主義になっているように感じる。情報を共有するにも、見る角度によって変わるので、お互いにそれらの情報を精査するのが良い。

○美幌町の現状、どのようなまちに住みたいのかを考えると30～40年前のお隣同士のようなおつきあいを大切にしたい。昨今の地域間・世代間の繋がりが弱く寂しく感じる。

○「安心」は大きなキーワードになっている。モノは満たされているが、精神面の不安が多い。その不安を一つ一つ解決していけば良いのでは。

○町民が一人一役でまちづくりに参加。どんな小さな事でも良いので全町民が参加してほしい。

○世代間によっても考え方が違ってくる。全部の世代が住みやすいと思うようなまちづくりは難しいのではないのか。（若い世代は都会の生活に憧れる　等）

○今の時代は、モノが少しぐらい不便でも精神・心を充実させた方が良い。

○地域で子どもを育てていきたい。

○何年たっても良いものは良いといえるような時代、まちにしたい。その結果、まちが明るく住みやすくなるのでは。

○世代間の繋がりを強くするためには、共通の話題を提示して話しをすることも必要だと思うが、なかなか難しい。

○挨拶・声かけ等基本的なことができていないように思う。子どもに対するものだけではなくて大人同士、子どもが大人に対するものが必要。

○不審者の情報によって、挨拶しない子どもも多いのではないのか。

○とりあえず、小さいことから行動してみようという気持ち、運動が必要。

○例えば、ゴミ拾いをしている人を見かけた時に、感謝の気持ちを心の中だけで終わらすのではなく、声に出して伝えた方が良い。

○地域間の助け合いを。ゴミ拾い、除雪等にしてもお隣の分もするぐらいの気持ちがお互いに必要。

○お互い（お隣）の状況を良く知ることが必要。知ることで解決する問題もあると思う。

○皆が個人情報を守りすぎ、行き過ぎなところがあるのではないのか。ある程度、個人情報を出すことで責任を持つのでは。

○まずは、小さなコミュニティーを守ることによって繋がりが広がっていくのでは。

○情報の共有のために、年配の方でもわかるような情報提供の方法を検討する必要がある。

○まちづくりの役割を各々、分散していく必要がある。自治会等、個人に負担が集中している場面が多いように思う。

○団塊の世代は特に一人で背負っている人が多い。自分も楽しもうとすることが必要。

○世代間の共通の話題がなくても、同じ空間にいれば良いのでは。

○あれも、これもと条例に盛り込みすぎはダメ。一つか二つでキーワードを決めてはどうか。ニセコ町の条文を見ると細かすぎる。

○言葉、文字で表すのは、子どもたちにも解るように（箇条書きでも良い）。

以上。

第5回みんなで創る自治基本条例町民会議　Bグループ会議録

出席者：大原委員、大江委員、小森委員、竹下委員、土谷委員　事務局(石坂）

美幌峠は全国から観光客が来る。その方達に「美幌に住みたい。」と思っていただくにはどんなことが必要なのか。美幌は東京とは違う。真似してはいけない。美幌は田舎である。昔は町の中にエゾリスが多くいた。町の中の緑を整備し、都会にはできない【緑や小動物や自然と共存した町】を目指してはどうだろうか。立ち寄った旅人が「美幌に住みたい」と心安らぐ場所にしてはどうだろうか。

町外から転勤してきた方から「美幌は住みやすい」と言ってもらうが、具体的に何がいいのかということを自分なりに考えてみるが、よくわからない。先ほどの話と類するが、自然豊かで小動物が寄るような町。水回りの整備。美幌はカラ松が多いが広葉樹が多い町並みに。立地条件は良い。自然をもっと上手に使えば良いのでは。

先日、移住希望者がちょっと暮らしという1週間程滞在するプログラムを体験され、体験後のアンケートに「美幌に住みたいと思うか。」の項目があり、そこに「いいえ」と書かれていた。その理由は「もっと田舎を期待していたから。」とのこと。自分自身はこの町は田舎のイメージであったが、本州から田舎を期待される方はもっと自然の中をイメージされているのだと思う。自分自身はこの町はとても住み良い町だと思っている。あまり困ることもない。が、具体的に何が良いかと説明しづらい。美幌町の良さを再確認することが必要なのではないか。

人生の半分以上は美幌で過ごしている。週末には母親の介護をしている。美幌町では民生部などで様々な業務を展開してはいる。が、更なる「安心して暮らせる町」の実現のためには、住民のコミュニティの強化が必要。高齢者のケアなど地域で支える町に。

美幌になぜ住んでいるかというと、父親は教師で「美幌は良い町だ。」ということを聞いていたから。「安心して暮らせる町、住める町」が必要。互いが互いの立場を認めながら、自分たちで出来ることはする。課題をみんなでクリアする。美幌町はこの点において進んでいると思う。基本条例はこのためのものになればと思う。

定年後の「第2の人生」をどう送るか。自分の知識や退職金などを活用して、町が元気になるように自分の「夢」に向かって努力する。団塊の世代には閉塞感があるが、自分や自分の周りの知人友人から始めている。21世紀開拓村みたいなものをつくりたい。国や道に(補助)申請はしている。だが、通らなければあきらめるのではなくて自分達で努力してやれるところまでやる。自分たちが動かなければいけない。自分には開拓者の血が流れているうように感じる。それぞれの（得意）分野で頑張れば【おもしろい町】になる。60歳で人生終わるのはもったいない。

「夢」を持てる、そして「夢」を実現できる、それをサポートできるような町になれば良いと思う。

先日、美幌町に国の機関より3人の職員が研修生として来町していたが、「美幌が好きになった。」と言ってくれた。惹きつけるものがあるのだと思う。21世紀開拓村は面白いアイディアで、仲間が増えるきっかけになると思う。「夢」を実現する、できる町は楽しいと思う。人づくりはそのまま町づくりに繋がる。

自治会の班でお葬式のお手伝いをしたが、若者がいない。だが、年配の方の話しをたくさん聞いたが大変有意義だった。若者がコミュニティに気軽に参加できるような町になれば。

「夢」と「現実」がある。生活はまさに現実。今、「夢」の話しはたくさん出ているので「現実」の方の話しについて何かあれば発言を。

皆が皆豊かな老後を送っているとは思えない。美幌の土地は耕せば野菜ができる土地。自治会で畑をつくるなどできないか。自分たちで汗を流しておいしい野菜を食べられる。少ない年金暮らしの中で自分たちの生活もプラスになる。余生を楽しめる。自分に誇りを持つ、それは、「役に立っている」ということ。

「夢」を実現するには、一人ではできない。サポートがあってできるもの。美幌町民の特性として熱しやすく冷めやすいところがある。

町民の皆さんが力を合わせて守っていけるような町に。元気で発展していくためには町民一丸となって互いに支えている町。支え合える「地域力」がある町づくり。「情報の共有」が必要。農業は基幹産業。例えばJAと町との情報交換をすることで良いアイディアが生まれるかも知れない。
先ほどの発言で【おもしろい町】とあったが、とても良いと思う。
町長職は「町の発展に没頭できるような環境」になれば良いと思う。議会では質問ばかり。議会議員もマニフェスト選挙をしても良いのでは。良い緊張感が生まれるかも知れない。

100%同感。美幌町議会の論議の方法は間違っている。「質問するのは我にあり」という立場はおかしい。

質問に答えるばかりではなく、論議をしたい。

質問ばかりになっているのは、上位法である地方自治法に不純物が混ざっているから。直接の当事者である町長が意見を言えず質問に答えるだけなのはおかしい。

仮に議会提案による議題の場合、町は質問できない。一方的になってしまう可能性もある。
「一般質問」という名称にも違和感がある。国会と地方議会ではパワーバランスが逆転している。
基本条例は、実践のためのルールになればと思う。

ニセコの自治基本条例は、町(長)の～から始まる条文が全体の35%ともっとも多く、住民は～からはじまるのは全体の12%ともっとも少ない。が、町の責務は個人情報保護などもともと上位法でうたわれていることの再掲がほとんどで、住民の責務はこの条例で初めて条文化されたものが多い。議会の責務についても町同様。バランスがあまり良くない。

美幌町は「助っ人」がたくさんいるということ。ネットワークが厚い。これは財産である。”この分野の知恵が欲しい”というときにもらえるように組織できれば良い。
熱い人情を持っている町。未知の分野はまだまだある。

町民は、無関心だから町政に参画しないわけではないと思う。町へ入りやすいルートがあれば良い。町民の皆さんも安心できる。そういう場がないから暗がりで集まって話してしまう。

美幌は、集まりやすいけど組織しづらい。ネットワークの構築も必要。

「自治会は高齢化が進み人材不足。」と言っていた。登録制の人材バンクなども必要だろうか。制度化は固すぎるかもしれないが、困っている人が助かるようなものが出来ればよいのでは。美幌町はNPOが少ない。育てる風土づくりも必要だ。

美幌は、人材豊富だと思う。

NPOは育っている。しゃきっとプラザで働くNPOの”えくぼ”は素晴らしい。また細かいボランティアも多い。

よく話題となるのが「住民協働」。実際はどこまでやれているのか。行政主導となっている感は否めない。行政はコーディネーターの役割になれれば良いのでは。

第５回『みんなで創る自治基本条例町民会議』（Ｈ２０．８．７）

Ｃグループ　出席：菅野委員、遠國委員、松浦委員、山本委員、小室委員
事務局：平井、沖崎

・各自治体で条例を作成しているが、特色を出せる部分としては前文や理念であると思われるので、皆様からの発言をそこに反映させていきたい。配付資料にもテーマが記載されているが、まちについて考えていることを、ざっくばらんに論議していきたい。
・美幌町には「これ！」という特産品がない→作りたい。
美幌に遊びに来た人がお土産に迷うという話を良く聞く。
農業が基幹産業のまちなのに、ＪＡの顔が見えてこない。
・商工会議所が中心となり、ＪＡ、商工会議所、行政（経済部）が連携し、悪いところを指摘し合うことに取り組みだしている。
・自治基本条例の作り方・進め方・必要性に疑問がある。
この条例は行政運営のルール作りと認識している。影響を受けるのが行政だとすれば、行政が原案を作成しそれを基に議論するべきではないか？
→これまでの町民会議において一定の方向が決定されている。この条例は作ればよいというものではなく、そこに行き着くまでの議論が大切である。
・誰のための条例なのかが釈然としていない。この条例が誰のためのものなのか。
→　住民・議会・行政など全ての方のものであり、地域の憲法のようなもの。
・「まちづくり」となると守備範囲が広く、分野によっては各委員にも得手不得手があるのではないか。
→　まちづくりの目指す姿は総合計画を始め、各分野の計画で示されている。本条例はそれらを進めていく上でのルールづくりと考えていただきたい。
・町民の意見反映や町政への参加、提案なども盛り込んだ条例とするならば、行政がこの条例を管理するのではなく、町民による審議会などの独立した機関が管理しなくてはいけない。
→　そういったことも条例に盛り込んでいってはという意見として発言いただきたい。
（条例と計画の関係や審議会等についての理解度は高まったものと思われるが、時間切れとなり終了）